

あの手この手で考えて、あの手この手で問題解決！

あの手この手

2011
12
月号



花ことばは「はにかみ」
ポインセチアとともにクリスマス
マスを彩る花です。

—シクラメン—

あの手この手のマークの間のSは solution(解決)のSです。

大和市民活動センター[拠点やまと] 第53号 2011年12月1日発行



文字絵 part3: 井上貴雄

文字で表現する井上貴雄さんの作品3回シリーズの最終回。
どんな文字が表現されているのか、よく見てください。

＜井上貴雄さんからのメッセージ＞

「クリスマス。みんな楽しく歌い踊る天使たち。トナカイもいっしょ」
という思いを“市民活動センター”の文字で描いてみました。

井上貴雄(いのうえたかお)プロフィール

1956年。大和生まれの大和育ち。大学卒業後、
教員を経て、農業をするとともに絵本作家として
活動。「夢現スタジオ」代表。

最近は、「みんなが負担にならずに出来る復興
支援を考えてみよう」という活動をしています。



ご来場ありがとうございました。
来年の「カッコーフェスタ'12」で
また、会おうね。



カッコーフェスタのキャラクター
カッコちゃん



*「あの手この手」は大和市民活動センターのH.P.ではカラーでご覧になれます。

＜送付の際、同封されているご案内＞

・第 48 回連続共育セミナー「おいしく食べて、もっともっと大和市を知ろう」のお知らせ

盛り上がった「カッコーフェスタ'11」

～活かそうひろがりの“わ”～



「カッコーフェスタのために作った
“カッコちゃんパン”おいしいよー」
「海外支援のためのグッズ販売してます」
「エコ布ぞうり」を作るTシャツを集めて
います」

11/5(土)、6(日)に、第6回「カッコーフェスタ」を
開催しました。

今年の特徴は東日本大震災に対する支援活動
団体の参加が多く、また各ブースやのぼり旗に
“ガンバレ東北”が多く見られました。「サポートチ
ームG」「かなボラ応援隊」は東松島や女川町と
連携して“バザー”を開催。

毎年、参加団体どうしの交流も生まれています。
団体交流会の「大和映像サロン」と同様に、「おり
がみサークル」や「バルーンアート」などは色々な
団体からイベント共催のお誘いがありました。



「市民活動センターって、駅から
近いのね」



「引地川にいる魚をつりませんか～」
[こどもエコクラブ]の子どもの
アイデアです。



後片づけの前に記念撮影「ハイ！こっち向いて」



「スタンプラリーが終わったら、
クジをひいてください」

ボランティアしたい人が集まりました



ボランティアはじめの一步を踏み出すバスツアーです

特別養護老人ホーム「晃風園」

利用者との碁や将棋、麻雀のお相手、手品や楽器
の演奏の披露、シーツ換えや食事介助のお手伝
い、地域との交流目的で開かれるお祭りなどの企画
運営のお手伝いなど多岐にわたり、のべ200人もの
ボランティアが関わっていることに驚いた。

ボランティア同士の交流会も年に一度
開いているそうです。

「自然観察センター」しらかしのいえ」

泉の森の自然にかかわる取組をしている
ボランティアについて説明を受けた。
「しらかしのいえボランティア協議会」という
組織があり、自然案内・泉の森ガイド・野鳥・
環境管理・柳とあそぼう引地川の5部会に分かれてい
る。泉の森を訪れる人に自然の素晴らしさを伝えたり、
森の質を保つ作業などを行っている。実際に森を歩きな
がら作業場所を見せてもらった。森を明るく保つた
めに伐採した木をシタケ栽培に利用したり、
散策道を保つための柵に使ったり等、ボラン
ティアの活動はまさに森の保全の主要級
です。



大和市民活動センター

ボランティアを始めたきっかけを先輩から聞いた後、「チーム
しらかし華の会」「食のアトリエ」「麦の香り」「バルーンアート」
「サウンドテーブルテニス」の皆さんから「一緒に活動しません
か」とお誘いがあった。1時間の短い間に情報を詰め込んで、
見学会参加者に「一步を踏み出そう！」とエールを送った。

<参加者の声>

- ・ボランティア活動は対人間ばかり思っていました、対自然がある
ことを初めて知りました。
- ・ボランティアで支えられている部分が多いことを改めて知りました。
- ・多方向での活動があることも理解できたことはよかったです。

11月19日(土)雨

おりがみ作品がネパールへ。

「おりがみサークル」の今年の作品は「いきい
きフォーラム草の根支援」の支援先のネパ
ールや震災被災地の子どもたちにもクリスマス
プレゼントとして届けられる。毎年、カッコーフ
ェスタ終了後に地域の子育て支援センターや
老人ホームにも届けて、たいへん喜ばれてい
ます。

「活動が人との出会いを生み 人との出会いが活動を広げていく」

11/26(土)に第 47 回連続共育セミナーを開催しました

「引地川にトンボが戻ってきた！」
～継続した市民活動から見てくるもの～



飯塚栄子さん

川は人をつないでくれて
トンボは環境指標になって
いるんです。

大和市や藤沢市の職員、横浜からトンボを研究しているご夫婦、市民活動を研究している大学生なども参加して、熱気ムンムンのセミナーとなりました。

行政の協力を得て、先駆的モデルとなった「三面張りコンクリート護岸」を壊して「自然蛇行の川」に戻した引地川。柳を植え、清掃活動をして、魚や鳥、昆虫と遊べる“水と緑の引地川”にした継続活動に拍手が起りました。

パワーポイント、ビデオを駆使しての分かりやすい飯塚さんのお話と、トンボ博士の異名を持つ湘南工科大学生の清水頭さんの解説で、引地川がトンボをはじめとした“生き物の宝庫”だということがわかりました。

蘇ったトンボのおかげで、きれいな水のありがたさを知りました。“非常にきれいな所”にしか生息しない“コオニヤンマ”が見られる背景には、ゴミ拾い(2t車で4往復(500Kg)回収したのが、今はその1/10になった)など、継続的なボランティア活動があります。一時、ここではハグロンボ絶滅が記録されましたが、2010年の調査では1731頭を確認しました。でも、ショックなニュースも。今年の調査では270頭に激減！卵を抱えた水草が昨年のゲリラ豪雨で流されてしまったようです。幼い頃、空に群れて飛ぶトンボを追いかけた思い出。それを知らない子どもたちのために自然をとり戻さなくては、と思った「共育(とむい)セミナー」でした。

第 48 回連続共育セミナーを開催します

今年もやります
「おいしく食べて、もっと、もっと大和市を知ろう」

日時: 12月16日(金) 18:30～20:30
場所: 大和市民活動センター会議室
参加費: 1000円



大和産の焼酎「和み」ができました。

清酒「泉の森」もあります。

大和市の推奨品を味わって「大和はおいしい！」を実感しましょう。

そして、大和市について、おおいに語り合しましょう。

団体交流会、カッコーフェスタに続く“交流の場”です。

気楽にご参加ください。



年末年始の休館のお知らせ

2011年12月29日(木)～2012年1月3日(火)まで休館



しっかり
ボールを受け
取って！

2011

2012

今年は12月28日(水)まで
この日の午前「センター」の大掃除です。
みんなできれいにしましょう！
新年は1月4日(水)から開館です。

「センター」のある日ある時

11月14日(月)晴れ

太陽が照る良い天気なのに寒さを感じる日。午後になって「暖房を入れてもいいでしょうか？」と聞かれた。そうか、猛暑の時の節電意識が続いているのだなと思い、「いいですよ、身体に気をつけて。風邪など引いたら大変ですから。」と答えた。そこでふと気付いた。そう言えば、午前中の会議室の人たち、頻りにトイレに来ていたな～。無理をして我慢していたのかな？何だか申し訳ない気がした。

*「あの手この手」は大和市民活動センターのH.P.ではカラーでご覧になれます。

『やまとっこ☆みつた』

★やまとっこ☆みつた★やまとっこ☆みつた★やまとっこ☆みつた★やまとっこ☆みつた★やまとっこ☆みつた★やまとっこ☆みつた★やまとっこ☆みつた★

★やまとっこ☆みつた★やまとっこ☆みつた★やまとっこ☆みつた★やまとっこ☆みつた★やまとっこ☆みつた★やまとっこ☆みつた★やまとっこ☆みつた★

第 142 回 11/1(火) ~活かそう!ひろがりのわ~

＜「カッコーフェスタ'11」参加メンバー＞
「サポートチーム G」と「チーム ピース チャレンジャー」の代表、「センター」のスタッフの3人が出演しました。今年「皆で力を合わせよう」を合言葉に、3.11 大震災の支援活動、チャリティ活動、そして日頃の生活を見直した貴重な体験や考え方を反映した「カッコーフェスタ」にしたいと思っています。楽しみながら市民活動や協働を知る“チャンス”です。



第 143 回 11/15(火) ~泉の森の紫陽花が花咲く~
＜チームしらかし華の会＞

会員の一人が、東日本大震災で自宅など全てを失くしてしまった女川町の友人の家の泥出し、瓦礫の撤去などを手伝った。現実に目にした悲惨な様子をボランティア仲間と話したところ、「泉の森のボランティア仲間何かできないか」ということになり、苗を育て、被災地の緑化を通して復興を支援しようと、このグループが発足。来年の春、桜の根元に植える紫陽花の挿し木290株と植え付けのための堆肥を女川町に届けます。三陸の北から南までの350キロ、『三陸復興国立公園構想』にも関わっていきたいと思っています。



★やまとっこ☆みつた★ やまとっこ☆みつた★ やまとっこ☆みつた★やまとっこ☆みつた★

懐 続けて3つの同期会。名前が浮かばない。合奏をしながら亡くなった隣の美人相棒を思い出し、涙で楽譜が読めなくなった。仲間へ感謝！健康に感謝！（望月則男）

甥 1歳9か月。一緒に遊んでいると楽しくて、暗いことも全部忘れてしまう。子どもは未来の希望だと実感します。（中山みゆき）

新 今年は「新」がたくさんありました。新居で心新たに取り組みました。概ね順調、好評◎です。来年は「強み」に仕上げたい！（関根孝子）

笑 あの「3.11」で失ったものへのあまりにも深い喪失感が伝わるなかで、被災地の保育園の子どもの写真。笑顔がいくつもあった。一筋の光明を見、救われた。（小杉皓男）

傾 傾聴、コミュニケーションをとるための基本。情報過多の現在のマスコミを前にして被災地の真の声を聞く傾聴の術を学びたい。（櫻井貞代）

熱血編集後記

あなたにとっての2011年の漢字は？

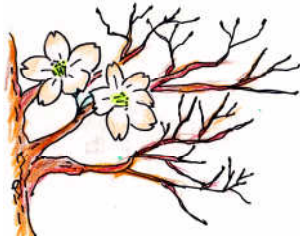


復 大震災の復旧工事が遅々として進まない。原発事故の影響も大きい。政府の何が何でも言う熱気が感じられない。良質な電気を供給する原発の復旧も期待する。（サポーター 今里鐵男）

運 運(うん)ではなく運ぶ。今夏は被災地に市民ボランティアを運ぶ事務に明け暮れた。ささやかな一助となっていればと切に願う。（村山真弓）

恩 迫りくる大津波を目の前にして身を捨てて避難を呼びかけ続けた“ひとの恩”。小学生時代の先生の郷里に招かれた、60年続く“わが師の恩”。（浅見正明）

問 震災と原発事故を経験して、生き方が問われる年となった。企業のモラル、報道のあり方も問いたい。来し方を振り返り、これからをどう生きるか、自問の日々です。（石川美恵子）



大和市民活動センター[拠点やまと]が制作発行する
月刊広報紙「あの手 この手」。
12月号(第53号)をお届けします。

大和市民活動センターの入り口前に大イチョウの木がすくっと1本立っています。樹齢7,80年かと推測されています。幹まわりは3m12cm。「堂々と」という表現がふさわしい姿でまわりを見渡すように立っていて、ちょうど今、緑の葉を日々黄色に様変わりさせる時期になっています。

ところで、この大イチョウ。「センター」のホームページのトップに「センター前のシンボルツリー 大銀杏の木」として、継続的に更新されて載っているのをご存知でしょうか。

ホームページに掲載するために大イチョウの写真を撮るとき、まず全体の姿を見、次は根っこのところから幹に従って上に視線を移動し、大イチョウのトップに届き、そのまま空に抜けるように首を上げていくのが常です。こんなとき声にならない言葉を大イチョウにかけている自分がいたりします。(圧倒的に存在感がある堂々とした大イチョウに比して、実にちっぽけで取るに足りない愚痴めいた言葉のひとつも浮かんだりして、恥じることがあったりするのですが)

東京新聞 11/25 (金) 付けの「筆洗」というコラムに「人は木に世話になっているばかりだ。」とあり、「だが、(木は) 恩着せがましいこと一つ言わない。詩人田村隆一の『木』が<木は黙っているから好きだ>に始まり<木ぼくはきみのことが大好きだ>という直截(ちよくせつ)な表現で締めくくられているのを思い出す」とありました。

そうか。私は「木の力(ちから)」を思いました。

東日本大震災の津波で壊滅的な被害を受けた陸前高田市の戸羽 太市長は、著書(*)の一文に「桜の木をたくさん植えたい。震災の日付に近いタイミングで開花してくれれば、気持ちも新たに復興に取り組めると思うから」と書いています。これを読み陸前高田市青年団体協議会のメンバーが立ち上げたのが「桜ライン 311」プロジェクト。津波の到達点を結ぶ線上に10m間隔で桜の木を植えるその距離は170km、桜の木は17000本になるという壮大なプロジェクトが現在進行中です。(*)「被災地の本当の話をしよう～陸前高田市が綴るあの日とこれから～」ワニブックス PLUS 新書

「桜ライン 311」のことを知った日、いつものように「センター」前の大イチョウの写真を撮った後、太い幹を手のひらでゆっくりひとつ叩き、私は思わず「頼むよ」と声を出していました。

記・小杉皓男[拠点やまと]広報係 2011/11/29

